

2022年3月期 中間期 決算説明会  
主要質疑応答

(開催日：2021年11月25日)

Q1：界面活性剤セグメントは、業績回復が顕著である一方、原材料価格の高騰が懸念される。更なる価格転嫁の余地はあるのか。

A1：国産ナフサを始めとして、多種多様な原料価格が上昇している。状況を見て、随時価格転嫁を進めていく。

Q2：需要は、好調な状況が続いているのか。

A2：界面活性剤業界全体でいうと、好調不調あると思うが、当社が販売している界面活性剤については好調な分野が多く、引き続き需要は堅いと見ている。

Q3：ウレタン材料セグメントは第2Qに黒字化したが、一時的な黒字回復なのか、それとも根本的に収益性が回復したのか。今後の見通しについて教えて欲しい。

A3：自動車業界の生産は半導体不足などの影響で少し陰りをみせているが、当社が販売する合成潤滑油は、順調に推移する見込み。

リニア中央新幹線の工事は、現在ダイナマイトで固い地盤を壊す工程が進んでいると聞いている。当社の岩盤固結剤は、地盤の比較的弱い場所で使用されることから、さらに工事が進めば販売量が増えることになる。また、北海道新幹線及び北陸新幹線の延伸工事でも使用される見込み。

Q4：光硬化樹脂材料について、足元の状況、下期および来期以降の販売見通しについて教えて欲しい。

A4：半導体不足や米中貿易摩擦の関係で、インフラ整備が予想よりも遅れてきており、当社の販売もその影響を受けている。本格的に回復するのは半導体不足が収まった来期以降になると見ている。

Q5：市場全体の需要が落ち込んだのか、それとも調整局面にあるだけなのか。

A5：当社としては、調整局面にあると見ている。

Q6：電子デバイス材料セグメントで、太陽電池用途の導電性ペーストの販売が好調であり、中国での販売を強化しているとのことだが、今後の見通しについて教えて欲しい。

A6：現在当社が販売している製品は、中国市場において技術水準で先行しており、しばらくは好調が続くと予想している。

以上